

市商工会青年部と総務文教委員会との意見交換会

【日 時】平成27年8月3日（月）午後7時～午後8時30分

【参加者】

- ・市商工会青年部
- ・総務文教委員：小倉初男・渡辺道大・濱上幸十・小倉伸一・川村孝則
長野広美・丸田健次・永田章
- ・市行政経営課
- ・議会事務局書記

【内 容】「まちなかにぎわい創出」と「中心拠点施設整備計画」について

【意 見】

- 交流拠点施設の内容の問題。今年から、にぎわい創出実行委員会委員として、関わっており、まち歩きをやっているが、観光客を一番念頭においてやっている。その拠点となるものは必要だと思うが、いろんな機能を盛り込みすぎている。
- 行政機能の移転（定住・移住関係）や地域交流の機能があるが、そういう機能を持つ施設が既にある中で、それを建設する意味があるのか。
- 農産物や土産の販売については、これを盛り込むと、商店街に影響がでることは目に見えている。商店街が疲弊していく。市の財源を使って進めていくのはいかなものか。どういうふうに成り立たせて、うまく進めていくのか。
- どうしたらまち歩きしてもらえるのか考えたときに、休憩場所であったり、道路の歩きやすさであったり、そういったことが整って初めて「拠点施設」という施設を作るべき。この内容の交流施設ができると、まちが先になくなってしまって、まち歩きをさせようにも、その環境がなくなってしまうことを危惧している。
- 建設の話の中で、コンサルの方に質問をしたときに、これらの機能を盛り込まないと、一つでもかけると失敗すると言われた。そのリスクを今、この時点で、多額のお金をかけて、スピード重視でやる必要があるのか。まだまだ話し合いが必要ではないか。他にやることはあるのではないか。まち歩きの機能を充実させることのほうが優先されるべきではないか。その後、まち歩きに送り出す拠点として、よく考えた上で、必要であれば施設を作り、観光の拠点とすればいいのでは。観光以外の機能については、もともとある施設を再評価するなりして、やっていけばいいのではないかと思う。
- スケジュールの件について。性急すぎる。なぜそこまで急ぐのか。この話は非常に大事な話で、金額的にも大きいので、もっと練る必要があるのでは。物

販については、既存の商店とのバッティングが心配。年々経営は厳しく、これ
でとどめがさされるようなことになってはならない。ただ、こういう施設を作
ろうとする動機、活力を取り戻すために何かしようと行動をおこしてくれたこ
とについては、ありがたいと思っている。

●西町・東町・鴨女町も含めた全体の都市計画、こういった町にしたいという
ものがなくて、ポイントだけポッと出てくる。港からの景観づくりや、将来的
にこういった町にしたいというコンセプトを作って、こういった施設が必要で
はないかという話に持って行った方がいいと思う。維持費もかかってくるので、
取り返しがつかない。お金は無駄なく使ってもらいたい。

●現状の案だと、この施設を目当てに観光客がくるというのはないと思う。南
種子に行く人が立ち寄ることはあると思うが、ほとんどが地元の人活用のな
るのでは。土産品店が一緒になってというが、自分の土地や建物があるのに、
そこを出て、施設に入ってくるかは疑問。

●交流館について、青年部では、会議の中ではなく、日常の中で意見交換をし
ている。各々が危機感をもって活動をやっている。

南種子町にトンミー市場や漁協のものがあるが、お客の入りはまだ少ないよ
うである。観光客を増やすという目的があったが、この施設が観光の目的地と
なるのには、ちょっと魅力に欠ける施設なのかなと思う。

温泉について話すと、温泉ができることで観光客が増えるとは思っていない。
島内の方が商店街にきてくれることを目的としており、観光客は $+\alpha$ と考えて
いる。温泉ができることで、お客さんの満足度があがると考えている。言いか
えると、交流館ができて、お客さんが増えるには、よっぽど魅力的な施設でな
いとなかなか難しいと思う。観光客がきたときに、「きてよかったな」と満足度
をあげる施設になればいいと思っている。

当初は物産館と言っていたものが、最近は交流館となっているが、中身とし
て商店街とバッティングする機能、物販スペースが問題。本土の道の駅は、県
外の方が多いが、鹿児島や屋久島からこの施設を目的にくるかというそれは
疑問である。仮に物販の機能がなくなった場合、人が集まる機能としての拠点
となるのなら、商店街ともバッティングしないという形となるので、いいとは
思う。が、立地的に見て、動線や周遊性を考えたときに、もう少し商店街のほ
うに、まちなかのほうにできたほうがいいのかと思う。

●市民は、200～300mでも車で行く。交流館ではなく、市街地に公共の
駐車場の整備をするほうがいいと思う。

●考え方自体、市が前向きに取り組むというのはいいことだと思う。

●計画自体はいい計画だと思うが、本当に話し合っているのか。できてから、
何のために作ったのかわからなくなっているのは困る。市民がみても「こういうのが

できるんだ」で終わる。プラス、マイナス聞きながらやってほしい。

●施設をつくり、商店街への回遊をつくるというが、施設を先に作っても意味がないのではないかと思う。商店街の人と一緒につくるのであれば、商店街をこうしようという計画がないといけないのでは。一時的には売り上げもあると思うが。

●施設の配置図を見たときに、観光客がくるのかなと思う。観光客のほとんどが、船でついたらレンタカーを借りて、鉄砲館にいたり、南種子にいたりする。観光案内所のようにすればいいのでは。

●施設ができたときのプラス・マイナスについて考えたときに、まず、マイナス面は物産販売が一番大きく影響する。農産物の販売については、他店とかぶっている。商品が同じもので、もし価格をあわせるとなれば、駐車場があるので、むしろのほう有利。また、赤字ではいけないので、必ず宣伝をするし、販売する農家も集める。そういうことに、税金を使う。ということからも市が運営していいのか。いかに、商店街に人を呼ぼうかとしているのに、逆になってしまう。商店街周辺の高齢者は他店を中心に利用している。そういうデータがでている。もし店を閉めてしまうようなことになれば、高齢者も困る。そこでマイナスがでてくる。マイナスが大きすぎる。プラス面については、観光客がまち歩きをすれば、それがプラスということになると思う。商売をしている人の、商店街としての考え方では、マイナスになってもプラスにはならない。

●他施設ができたときも、2、3年の間、雇用創出のためにという話で、「いいですよ」ということを言った。実際、他店にとっては、マイナス。農産物だけだったのが、取り扱うものも増えてきている。

●商店街だけでなく、農業にしても後継者が大事。帰ってくる人は貴重。足をひっぱるのではなく、支援をしていただくような、そういったマイナス面は極力なくしてほしい。

●プラス、マイナス考えないで、拠点施設ができた場合のまちづくりについては、場所的にずれているので、連携をとるのは難しいと思う。

●人が集まる機能がまとまるのはいいこと。要は物産・土産の販売といった商店街とバッティングするところが問題。仮に物販機能がなくなったときに、残りの機能で採算がとれるのかといった問題もある。

●今後の商店街の活性化については、青年部として話をする機会はあまりない。商店街の悩みを分かっている人は多いが、青年部＝商店街とはなっていない。青年部の活動が、商店街のにぎわいに寄与するように、イベントを行っている。子ども祭りにおいては、非常に多くの人が集まって、にぎわい作りに一躍かっていると思うが、より密な話し合いということにはなされていない。

●にぎわいの実行委員会でやっている、まち歩きには、手ごたえを感じている。

商店街や価値のありそうな建物など、地元の人には何でもないことが、観光客にとっては、感動するものであったり、魅力のあるものだったりする。そこをピックアップして回遊をつくることができればいいと思う。コンシェルジュや月窓亭は、評判もよく、施設としては成熟している。いかにそこに人を送り出すか、それができればハードなり、環境を整えるのはいいと思う。大きく反対というより、中身の話で、早急に動いている感じがある。いい部分もあると思う。

●黒潮芸術祭について。今年5年目になる。観光客は記念写真をとりたいということに着眼し、店自体が観光・写真スポットになるような取り組みをすすめている。トリックアートや作品をおき、写真をとることで、その店を宣伝してもらい、来た人が店をアピールするようなしくみを作っている段階である。